

現状・課題

計画的な施策の展開

政策目標

平成23年度において、トップアスリートが地域への巡回指導を行う拠点クラブとして、30クラブを選定

次世代アスリートを計画的・継続的に一貫して発掘・育成を行う体制が不十分

多くのアスリートが現役引退後のキャリアパスに不安を感じているものの、アスリートへの支援に取り組んでいる競技団体は少なく、アスリート自身も引退後へ向けての取組を行う者は少ない

体育系大学で学ぶ者は年間、約3万5千人にのぼり、大学で学んだことを専門的に実践する場が不十分である。さらに卒業後は、その専門職としての能力を十分に発揮できる環境が限られている

総合型クラブでは、クラブマネジャーを配置しているクラブは半数以下であり、有資格指導者についても有効に活用されているとは言えない

障害者スポーツについて、障害の種類や程度に応じ必要な配慮が求められている

全国的なスポーツ障害・事故のデータが存在せず、地域におけるスポーツ障害・事故の全体像が把握できない

(1) トップスポーツと地域スポーツの連携

【施策目標】

・地域スポーツの推進や次世代アスリートの育成等を目的としたトップスポーツと地域スポーツにおける人材の好循環の創出

【主な施策の方向性】

- ・拠点クラブにトップアスリート等の優れた指導者を配置し、周辺クラブへの巡回指導等を実施することにより、トップスポーツと地域スポーツにおける人材の好循環を推進
- ・学校や地域におけるスポーツ活動の中から潜在的な能力を有するアスリートを発掘・育成する体制を整備し、将来的には育成されたアスリートが、地域スポーツにおける指導者となる体制の確立
- ・トップアスリートや指導者、スポーツ団体に対して、「デュアルキャリア」についての意識啓発 …etc

(2) 地域スポーツと企業・大学等との連携

【施策目標】

・企業や大学に蓄積された人材、スポーツ医・科学の研究成果等を地域スポーツにおいて活用するための連携・協働の推進

【主な施策の方向性】

- ・地元企業や大学との連携・協働の推進による地域スポーツにおける優れた人材の確保
- ・地域に密着した活動を行う企業スポーツチームと拠点クラブ等との連携による地域の活性化に資する事業の推進
- ・大学が地域の一員として、拠点クラブ等との連携により総合型クラブの運営や地元のジュニア育成活動など地域貢献活動を推進
- ・企業や大学で得られたスポーツ医・科学・情報の研究成果を、健常者が障害者と一体となつて行うスポーツ活動やスポーツ障害・事故防止等、地域スポーツ活動において活用できる環境づくりの推進 …etc

地域スポーツとトップスポーツ間の人材の好循環をはじめとする多様な主体の連携と協働を生み出す環境を整備する。